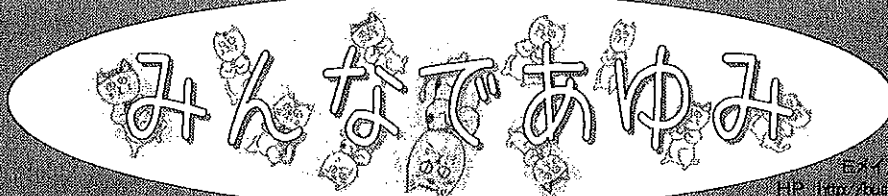


今年後援会会員  
333名  
（総額1,000名）



## 「子ども・子育て新システム」無認可保育所はどうなるの？

NPO法人あゆみ会では、11月の臨時総会に元高陽なかよし保育園長・全国保団連副会長、石川幸枝先生をお迎えして、「子ども・子育て新システム」の学習会を行いました。

### 「子ども・子育て新システム」とは…

民主党政権が打ち出した新たな保育・子育て制度案です。その特徴は保育・子育ての分野を、儲けを生み出す新たな産業として位置づけていることにあります。

福祉としての保育を産業化し、お金で売り買いし商品に変える、経済効果を優先し、子どもで儲けるしくみが新システムです。そのためには、介護の分野と同様に多様な事業者の参入を図ることが必要であり、国と自治体が保育の実施や最低基準に責任を負わない方向に持っていかうとしています。



### 「新システム」の中で、無認可保育所はどうなるのか…

1. 「新システム」の指定基準に該当する保育所は、公立・私立・無認可の子どもも含めて同等になる。
2. 行政からの運営費給付は保護者に対して行われるが、代理事業として保育所・園への給付になる。
3. 「新システム」の「指定基準」については、全国一律の基準を厚労省が示すことになるが、基準はまだ確定はしていない。

無認可保育所は、「子どもを保育する」という公的な仕事をしているにも関わらず、「無認可」ということで「直接契約」「補助なし」という自由競争の中に追いやられてきました。見方を変えれば、現行保育制度は、無認可にいたる全国で23万人以上の子どもたちの人権を守ることをしなかったと言えます。

「新システム」になると、無認可保育所でも「指定基準」を満たすと、行政から認可保育所のように運営費が支払われることになりそうです。それでは、「新システム」は無認可保育所にとっては良い制度？と思われそうですが、果たしてそうでしょうか。

児童福祉法に掲げられた保育の実施義務を、国の責任から外し企業に委ね、応能負担から応益負担に移行しようとする国の方針は、子どもや保護者にとって決して今より良くなる制度とは言えません。日本全体の保育所に通う子ども達の危機と言えると思います。

これから「新システム」の問題点を明らかにしながら、無認可保育所の子どもたちに公的保障を求める運動を強めていくことが必要だと考えています。

「保育の市場化に反対し、現在、保育を必要とし、市場になげだされている子どもたちすべてに国からの補助をもとめる請願書」署名にご協力ください。

### カンパ・会費納入のお願い

2011年度もあゆみ後援会会員として継続をお願いします！

この度、振込み用紙を同封させていただきました。別紙で会長より年末カンパのお願いをさせていただいておりますが、今年度会費が未納の会員の皆様には会費納入をお願いしたいと思います。

今年度会費が未納の方には「会費・カンパ」と両方の記入がある振込み用紙を、今年度会費をすでに納入していただいている方には「カンパ」のみ記入がある振込用紙になっております。ご理解の上、よろしくお願いいたします。

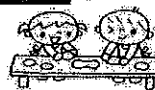
○やむを得ずあゆみ後援会を退会される方は、その旨ご連絡いただければありがたいです。

○会費・カンパの納入は、振込みまたは直接保育園にお持ちください。

### もちつき会のお知らせ

今年もあゆみ恒例もちつき会が開催されます。

日本の伝統行事を子供たちと一緒に楽しみませんか？



開催日時	平成23年12月25日(日)朝9時から
場所	蔵本公園(あゆみ保育園むかいです)
参加費	大人400円 子供300円(うさぎ組以上中学生まで)
持ってくる物	お箸、お椀、小皿、コップ
メニュー	雑煮、きな粉餅、しょう油餅など



ーカンパとお手伝いのお願いー

①餅米、野菜(大根、人参、白菜、ネギ、しいたけ) きな粉、砂糖、醤油、みかんお待ちしております。

②バザーの品物をお願いします。タオル、食器、日用品、何でもOKです！

③手作りお菓子、総菜など作って下さる方を募集中です。(担当は芦田先生です。)



### ★ 保 育 士 募 集 ! ★

\* 要保育士資格

\* 詳細はお問合せください。

# 全国無認可保育所連絡協議会 第8回中国・四国ブロック交流会 in ヒロシマ

2011年9月23・24日、広島市東区民センター  
参加者 延べ88人

中・四国ブロック交流会は、始めは4県が交替で開催県になり毎年行っていました。その内参加県が3県となり2年毎に行うようになりました。今年は、広島県開催となり、広島市のここに保育園、尾道市のあゆみ保育園、呉市のあゆみ共同保育園が実行委員会を作り計画を立てました。

一日目は、全国無認可会長の藤崎隆先生の基調報告と分科会を行いました。藤崎先生には、震災のあった宮城から遠路遙々おいでいただき、現地の保育所のようなすや子どもたちの姿、今問題になっている「保育所新システム」について話していただきました。「新システムに移行したとき、保育の実態がどうなるのか想定してみると、現に無認可保育所が置かれてきた状況そのものである」と言われましたが、わが園の実態からいつもそう感じていたものでとても共感できました。今後、どのようにしていくのか、しっかりと見極めていかなければならないと思いました。藤崎先生は、夕方まで保育をされ東京で前泊をしておかけくださり、本当に心から感謝しております。基調報告のあとは、4つの分科会に分かれて提案者の実践報告をもとに討議。各分科会に専門の助言者をお招きし、より充実した分科会になったと思います。

(1. 園の運営・経営 2. 保育内容 3. 食の大切さ 4. 平和と子育て)

また一日目の夜は恒例の交流会を行いました。初参加の園もあり、各地の出し物・報告に大いに盛り上がりました。

二日目は、記念講演「子どもの心によりそう保育・子育て」というテーマで広島市西部こども療育センターの蛸田洋子先生に講演をしていただきました。先生は発達障害のある子どもたちに日々接しておられ、発達を学習することの大切さや子どもの気持を「受け止める」と「受け入れる」とは別である等、たくさんのお話を聞かせていただきました。

明日からまた保育実線を積み重ねて、2年後に山口県でお会いしましょう！と固い約束をして閉会しました。

## 【初参加の感想】

初めての参加でした。園の運営に皆さんご苦労され、長く運営されており、すばらしい事だと感動いたしました。認可されることの大切さをつくづく考えさせられました。これから、もっと地域にお役に立てる園としていきたいと、改めて思いました。

## 休み山登山—くじら&ぞうつ—しんより—



11月28日(月)くじら組・ぞう組と、代休日の学童さんとで、行ってきました！昨年に続いて2回目のみんなの足取りは、とてもきつい坂や階段・山道も頑張りを見せてくれて、頼もしい感じさえました。特に昨年、きりん組で登った現在のぞう組は、怖がったりする事もほとんどなくなり、本当によく頑張って登りました。中身のいっぱい詰まったリュックが、背中で揺れるのを見ると、なんだかかわいそうな気もしましたが、当の子ども達は、木の実やどんぐりを拾いながら楽しんで歩いていました！

くじら組は、一人一人が楽しみながら、「あと少し行ったら、トイレがあるところで休憩よ」「おっきな石を登るんよ」と、去年の事も覚えていて登っていきました。

坂も階段も山道も、確かにきつくてしんどかったです！だけど、お帰りの会で子ども達は、「階段がたくさんでしんどかったけど、頑張ったのが素敵でした！」「坂で滑りそうになったけど、一生懸命頑張りました！」と、自分の事を褒めていました。

山頂では、今年は海はあまり見えませんでした。ペコペコになったおなか…ペロリとお弁当をたいらげて、みんなでかくれんぼを楽しみました。とっても楽しかった山頂でのかくれんぼです！



## あゆみOBリーレーエッセイ

VOL.26

### 「お友達と、いっしょに」

中野 智子

あゆみと私達親子の出会い、年長を迎える直前でした。当時好乃美は療育施設「つくし園」に通い二年目でしたが、つくし園の療育は十時から三時まで。どうしても朝と夕方に預かってもらえない場所が必要だったので、以前在籍していた保育所からは「来年度は難しいですね。」とお断りされ、どうした物かと途方に暮れていました。仕事を辞めるかつくし園での療育をあきらめるか。悩む私に、あゆみの卒園生のお母さんだった職場の先輩から、「あゆみに聞いてみてあげようか？」と声をかけてもらいました。まさに天の助けでした。しかし、様々な保育所で「好乃美ちゃん、みんなと一緒に遊べないね。」と言われ続けて来たこともあり、受け入れてもらえるかとても心配でした。

初めて挨拶に行った日、佐藤先生が好乃美の様子を見て「ま、大丈夫でしょう。」と明るく言ってくれました。一気に緊張が解けました。あゆみの懐の深さを感じた瞬間でした。朝と夕方だけの本場に短い時間の中で、かけがえのない力をつけてくださっている事を実感したのは、やはり運動会です。まさか出られるとは思っていなかったあゆみの運動会。担任の中本先生から、「できることを一緒にやってみましょうね。」と声をかけてもらった時は泣かずに最後までその場にいられたら花丸、くらいの気持ちでした。しかし、通信や出会うお母さんから、「好乃美ちゃんすごいよ。頑張ってるよ。」とあたたかい言葉をいただいて、だんだん当日が楽しみに思えるようになりました。そして本番の日、好乃美はあゆみTシャツを着て、笑顔でみんなと一緒に競技も演技も頑張ってくれました。難しい所はお友達に助けってもらいながら、「私できるよ。分かるよ。」という喜びに満ちた表情で、参加できていました。リトミックの最後、年長のお友達みんなと手をつないで踊る姿に「あゆみに出会えて本当によかった。素晴らしい先生やお友達、お家の方に会えて、好乃美は幸せな子だ。」と、涙が止まりませんでした。

素敵な思い出は数え切れませんが、裸足で大泣きしながらもみんなと登れた休み山登山、お迎えに行った時、好乃美のようすをお友達がいっしょに教えてくれたこと、通信で母さん方からももらったメッセージの数々、ぞう列車コンサートで一生懸命歌う子ども達に感動したこと、悩みを親身に受け止めてくださった先生の優しさ、そして別れを惜しんだ卒園式。

みんなと一緒に遊べない宝物をもらいました。それは、「お友達と一緒に遊べる」「一緒に遊べる」という気持ち。

今日も元気に好乃美は学校へ通います。あゆみでもらった宝物が、これからの彼女をずっと支えてくれるでしょう。そしていつか、みんなの中で明るく元気に働ける大人に育ってくれると信じています。